令和6年度(2024年)公益財団法人　音楽文化創造　事業報告

当財団は、平成6年(1994年)に制定された「音楽文化の振興のための学習環境の整備に関する法律」(略称:音楽振興法)の趣旨に基づき、音楽に関する文化活動を幅広く振興するとともに、生涯学習の一環としての音楽学習の活性化を図り、もって我が国の音楽文化の発展と音楽を通じた国際相互理解の促進に寄与することを目的として活動しています。令和6年度はこの目的に沿って事業を展開しました。

【公益目的事業】

1. 音楽に関する国内外の協議会、講演会等の開催及びその開催のための協力
「国際音楽の日」の普及のための事業、その他音楽を通じた国内外の文化交流促進事業の実施

当財団認定の生涯学習音楽指導員の全国組織である全国生涯学習音楽指導員協議会は音楽振興法推進の精神に基づき、全国各地域で音楽文化振興と生涯音楽学習の普及活動を行っています。それらの活動の報告及び「国際音楽の日」の普及と音楽を通じた国内外の文化交流促進を目的としたイベントを開催しています。今年度は以下を実施いたしました。当財団はその活動に協賛し支援を行っています。

＜名　称＞　国際音楽の日2024 シンポジウム in 東京
～地域の音楽活動と持続的資金調達の課題と可能性～
＜目　的＞　本行事は「音楽を通した社会貢献活動継続のために今、何が必要か？」をテーマに資金調達方法に焦点を当て、各支部へのアンケート結果や登壇した3支部からの好事例紹介をもとに専門家を交えたパネルディスカッションを行いました。また、各支部の日頃の活動状況や課題等についても情報交換を行いました。
＜日　程＞　2024年10月20日(日)　13:00～16:40
＜会　場＞　日本青年館8Fカンファレンスルーム(会議室)イエロー
＜主　催＞　全国生涯学習音楽指導員協議会
＜主　管＞　「国際音楽の日　2024　シンポジウム in 東京」実行委員会
＜協　賛＞　公益財団法人　音楽文化創造
＜後　援＞　文化庁
東京都教育委員会
ヤマハ株式会社
株式会社河合楽器製作所
鈴木楽器販売株式会社
株式会社ヤマハミュージックジャパン
一般財団法人日本青年館
一般社団法人全国楽器協会

＜プログラム＞　(敬称略)
基調講演:ファンドレイジング(資金調達)の第一歩
～音楽活動の持続可能性を「お金」から考える～
講師:ファンドレイザー　川野辺雪菜
事例紹介:ガバメント・クラウドファンディング　全国生涯学習音楽指導員協議会　山口支部
子ども夢基金　全国生涯学習音楽指導員協議会　愛媛支部
子ども夢基金　全国生涯学習音楽指導員協議会　奈良支部

パネルディスカッション
「地域の音楽活動と持続的資金調達の課題と可能性」
ファシリテーター:久保田慶一
公益財団法人音楽文化創造理事、東京経済大学客員教授
放送大学非常勤講師
コメンテーター: 渡邊剛志
国立青少年教育振興機構子ども夢基金助成課課長
コメンテーター: 川野辺雪菜
ファンドレイザー
パネリスト: 全国生涯学習音楽指導員協議会
山口支部、愛媛支部、奈良支部、代表理事

＜参加者＞ 75名（協議会:15支部 56名、一般会員7名、関係者/招待者12名）

2.「国際音楽の日」の普及のための事業、その他音楽を通じた国内外の文化交流事業の実施

音楽振興法第7条に定められた「国際音楽の日」を広く普及することを目的としたコンサートやイベントなどを実施する音楽団体に対し助成を行いました。

＜国際音楽の日記念事業 選考委員会＞
開催日:2024年4月10日(水) (敬称略)
委員長: 久保田慶一
公益財団法人音楽文化創造理事、東京経済大学客員教授
放送大学非常勤講師
委員: 河原啓子
国立音楽大学、青山学院大学、立教大学ほか 兼任講師
アートジャーナリストアート、ドキュメンタリー作家(日本文藝家協会正会員)
大島路子
桐朋学園大学音楽学部 非常勤講師
揚石明男
公益財団法人音楽文化創造 常務理事 事務局長

＜申請団体数＞ 20団体
内訳:生涯学習音楽指導員 3 団体、地域音楽コーディネーター 6 団体（重複3団体）
一般 14団体
＜助成決定団体数＞ 10団体 ＊1団体辞退
内訳: 地域音楽コーディネーター2団体、一般 8団体

＜実施報告＞

●9月1日(日) ミュージックワークショップ リズムで音あそび！
【主催】音あそび (群馬県)
【会場】 桐生市市民文化会館 リハーサル室 1

【企画のねらい】
ヴァイオリンとピアノの演奏をただ聴くだけでなく、全員でハバネラ、タンゴ、八木節のリズムを打ったり、演奏に合わせて手拍子で合奏したりすることで音楽を体全体で感じたり、より身近なものとして楽しんでもらいました。

●9月13(金)　子ども食堂　音楽のゆうべ
【主催】ライブ御殿山（大阪府）
【会場】五常小学校　音楽室　家庭科室
【企画のねらい】
子ども食堂の目的は、おなかをすかせた子どもへの食事の提供から、孤食の解消、滋味豊かな食材による食育のすすめ、地域交流の場作り等々様々。今回は子ども食堂の子ども達に良い音楽を聴いてもらうだけでなく、普段こども食堂を利用しない生徒や保護者、教員にも参加を呼びかけ理解を深めてもらいました。

●9月23日(月・祝)　小児がんの子どもたちを応援するチャリティコンサート
【主催】Ensemble Espoir（東京都）
【会場】ティアラこうとう小ホール
【企画のねらい】
日本で1年間に小児がんと診断される子どもは2,000人～2,500人。病気と闘っている子ども、病気が治っても後遺症や合併症に苦しむ子ども達がたくさんいます。このコンサートを通じてがんと闘う子どもと家族への理解と応援の輪を広げたいという思いから実施いたしました。結果として多くの方々から賛同を得ることが出来ました。

●9月29日(日)　0歳からの音楽の広場　打楽器の世界
【主催】たいこらんど（東京都）
【会場】泉の森会館　3F　多目的ホール
【企画のねらい】
身近にある打楽器に焦点をあて、本当の使い方、鳴らし方、演奏の仕方を説明しつつ実際に楽器に触れて体験してもらいました。子どもから大人まで一緒に楽しめる打楽器の魅力を多くの人達に伝えられました。

●10月6日（日）キッズコンサート
【主催】フェローオーケストラ
【会場】川崎市総合自治会館
【企画のねらい】
今年度のコンサートは「ダンス」をテーマに、様々な国の舞踏音楽を取り上げました。当日は、オーケストラの迫力ある演奏と、プロのバレエダンサーにより様々なダンスを紹介。また、子どもたちにも様々なダンスや楽器を体験してもらいました。

●10月27日(日)　第22回川副町ふれあいコンサート
【主催】Trio Lien
【会場】佐賀市立南川副公民館
【企画のねらい】
地元の人達で作り上げるコンサート。今年も年長(6歳)から88歳の出演者、お客様も赤ちゃんからご高齢の方まで一緒に楽しむコンサートになりました。

●11月16(土)、17日(日) 湘南に響く被爆ピアノ～共生と平和

【主催】湘南SHOW点

【会場】湘南台駅地下／BRANCH茅ヶ崎2

【企画のねらい】

共生社会の実現と、平和の大切さを訴えることを目的に開催。広島から被爆ピアノを会場まで運んでコンサートを実施しました。所有者である被爆2世の方の講演や、原爆写真展も同時に開催。また事前に出演者を公募し稽古を重ねてきた、原爆を題材とした音楽朗読劇も上演しました。

●12月1日(日) おさんぽクリスマスファミリーコンサート

【主催】おさんぽリトミック

【会場】あいホール(浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター)

【企画のねらい】

NHK歌のおねえさんと子ども合唱団が出演し、親子リトミックやクリスマスソングを通じた参加型プログラムを実施。0～2歳の親子を対象に、音楽を通じ親子のふれあいや異年齢交流を目的としました。チラシ配布やSNS告知により197組が来場しました。

●12月28日(土) あだちで楽しもう！歌とサンバと盆踊り

【主催】湘南市民ワークショップ

【会場】梅田地域学習センター(エルソフィア)ホール

【企画のねらい】

高齢者の認知症予防、健康づくりと多世代交流を目的に月に1度、歌、盆踊り、演奏、朗読等のワークショップを行っています。受講者同士の交流を深めモチベーションアップのため成果発表会を開催しました。

3. 音楽学習に関する指導員の養成プログラムの開発及び実施

＜地域音楽コーディネーター養成講座＞

地域において音楽による文化振興をはじめ、様々な社会貢献活動を推進するために、音楽専門家、地域住民、音楽団体、行政等との連携を図り自らも推進役となれる人材の育成を目的に講座を実施しました。受講修了後「地域音楽コーディネーター」の資格を認定しました。対象者は地域において音楽による社会貢献活動に携わっている、または今後音楽による社会貢献活動を始めたいと思っている一般の方々です。
今回は従来のオンライン形式に加え文化施設のご協力を得て会場での対面開催も行いました。

●養成講座オンライン 7月

＜ 実 施 日 ＞ 7月7日(日)
＜ 対 象 ＞ 一般
＜ 受講者数 ＞ 52名
＜ 内 容 ＞ (敬称略)

(1)生涯学習と音楽

テーマ:地域音楽コーディネーターと学校部活動の地域移行について

講師: 久保田慶一

東京経済大学客員教授、放送大学非常勤講師、公益財団法人音楽文化創造理事

(2)文化と地域創生
テーマ:音楽の力で地域を元気にする
講師: 渡辺昌明
東大阪市文化創造館 館長、全国公立文化施設協会 コーディネーター
(3)地域文化マネージメント
テーマ:社会貢献活動 ～地域や行政とのつながり～
講師: 藤根由紀子
NPO 法人みらいっこ理事長、知多半島春の国際音楽祭大府市実行委員長、
保育園管理責任者、音楽アウトリーチ事業活動事務局長、
地域音楽コーディネーター
(4)音楽企画書の書き方
テーマ:「ターゲットを明確にして、キャッチフレーズを考えれば、企画は自ずと出来上がる!」
講師: 大谷 邦郎
グッドニュース情報発信塾 塾長

●養成講座 対面 11月

＜実施日＞ 11月23日(土)
＜会場＞ 日本特殊陶業市民会館(名古屋)
＜ 対象 ＞ 一般
＜ 受講者数 ＞ 29名
＜内容＞
(1)生涯学習と音楽
テーマ: これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望
講師: 久保田慶一
東京経済大学客員教授、放送大学非常勤講師、公益財団法人音楽文化創造理事
(2)文化と地域創生
テーマ:文化を活かしたまちづくり
講師: 広中省子
ジョイントフェスティバル協議会 会長
(3)地域文化マネージメント
テーマ:社会貢献活動 ～地域や行政とのつながり～
講師: 藤根由紀子
NPO法人みらいっこ理事長、知多半島春の国際音楽祭大府市実行委員長、
保育園管理責任者、音楽アウトリーチ事業活動事務局長、
地域音楽コーディネーター
(4)音楽企画書の書き方
テーマ: 音楽企画書を作る ～その意味と活用～
講師: 生田創
長久手市文化の家 館長

●養成講座オンライン 1月

＜実施日＞ 2025年1月26日(日)
＜ 受講者数 ＞ 37名

＜内容＞

(1)生涯学習と音楽

テーマ: これからの音楽の学び 地域音楽コーディネーターの展望

講師:河原啓子

国立音楽大学、青山学院大学、立教大学ほか 兼任講師

アートジャーナリスト、アートドキュメンタリー作家(日本文藝家協会正会員)

(2)文化と地域創生

テーマ:文化を活かしたまちづくり

講師: 広中省子

ジョイントフェスティバル協議会会長

(3)地域文化マネージメント

テーマ:誰もが自由で創造性を発揮できる共生社会の実現を目指して

講師: 菊川穣

一般社団法人エル・システマジャパン代表理事、公益財団法人音楽文化創造理事

(4)音楽企画書の書き方

テーマ:「ターゲットを明確にしてキャッチフレーズを考えれば、企画は自ずと出来上る!」

講師: 大谷 邦郎

グッドニュース情報発信塾 塾長

●養成講座オンライン 3月

＜実施日＞ 2025年03月02日(日)

＜ 受講者数 ＞ 36名

＜内容＞

(1)生涯学習と音楽

テーマ:人とのつながりの中で音楽を学ぶことの意味とその支援について

講師:志々田まなみ

文部科学省国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官

公益財団法人音楽文化創造 理事

(2)文化と地域創生

テーマ:音楽の力で地域を元気にする

講師:渡辺昌明

東大阪市文化創造館 館長、全国公立文化施設協会 コーディネーター

(3)地域文化マネージメント

テーマ:生まれる文化、続く文化、バトンをつなぐ杉田劇場でありたい

講師:中村牧

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 磯子区民センター 杉田劇場館長、

公益財団法人音楽文化創造理事

(4)音楽企画書の書き方

テーマ:音楽企画書を作る ～その意味と活用～

講師:生田創

長久手市文化の家 館長

4. 音楽に関する調査研究並びに情報の収集及び提供
音楽学習に関する指導員の養成プログラムの開発及び実施

文部科学省が進めている学校文化部の地域移行対策として文化庁令和6年度委託実証事業「文化部活動改革(部活動の地域移行に向けた実証事業及び地域文化クラブ推進事業)」に昨年度に引き続き参画致しました。当財団はこの動きを学校の部活動を単に地域へ移行するということではなく、地域の音楽文化の振興、生涯音楽学習の環境整備に資する社会改革と捉え積極的に関わっております。具体的な事業として以下を展開いたしました。

① 地域の受け皿構築に関する調査研究

昨年同様、以下7団体と連携し、各団体が構築した実施主体(コンソーシアム)の実態調査を行い報告書をまとめ、年度末に調査報告書を文化庁に提出いたしました。今年度は特に各団体の自立化に向けた体制の構築及び各教育委員会との連携を図ることを目標としています。

【参加7団体と実証事業】

・株式会社宮地商会 (東京都小金井市)
　→ 国立音大の協力のもと東京多摩ジュニア吹奏楽クラブを設立し活動
・株式会社 中川楽器(岡山県倉敷市)
　→私立倉敷高等学校の協力のもと高校生吹奏楽部の練習に中学生が参加
・株式会社富岡本店(山形県山形市)
　→山形交響楽団の協力のもと異年齢地域楽団に中学生が参加
・近畿日本ツーリスト株式会社(大阪府枚方市)
　→オンラインによる中学校吹奏楽部への指導
・(公財)横浜市芸術文化振興財団磯子区民文化センター杉田劇場(神奈川県横浜市)
　→ 地元中学校吹奏楽部、合唱部にプロの音楽家を指導員として派遣
・NPO法人ふじみ野市音楽家協会(埼玉県ふじみ野市)
　→行政と関係文化団体からなる地域文化クラブによる中学生への指導
・NPO法人掛川文化クラブ(静岡県掛川市)
　→市の文化財団を中心に中学校部活動の受け皿体制を構築と指導者の育成

② 地域の部活動指導者の育成カリキュラムの開発と展開

学校の先生に代わる指導者としての資質や必要な知識、スキル習得のための育成カリキュラムを開発し、講座、研修会等を行い人材の確保を図ります。今年度は、現場ニーズの把握及びカリキュラムの適正化のため実証事業参加団体との意見交換やトライアル講座を実施しました。今後、現場の声を活かして内容の完成度を高めるとともに認知度アップに努めて参ります。

【カリキュラム】

・地域文化 / 制度『文化政策と学校部活動の地域移行』
・組織運営『音楽団体マネジメントとネットワーキング』
・リスクマネジメント『指導者の倫理と管理』
・発達と教育『音楽活動におけるコーチング理論』

③ 実証事業参加団体の事例紹介や情報の発信

学校部活動の地域移行及び地域文化クラブの推進には、行政、学校、地域の関係者の理解と協力が不可欠です。ただ、各地域ごと状況が異なるため様々な事例を参考にして自分達の地域の実状にあった対策を検討することが必要です。そこで、実証事業参加団体を始め各地で地域文化クラブ活動を行っている団体の事例や情報を収集し音文創のWebサイトからトークセッションや取材動画の形で発信いたしました。ジャンルは、吹奏楽の他軽音楽にも広げています。また、関係者や関連団体が一堂に会して意見や情報を交換する場として、文化庁の協力を得てシンポジウムも開催いたしました。

【トークセッション】　　（敬称略）

● けいおん事始め ～学外に支援の輪を広げた音楽活動（Part1～Part3）
＜登壇者＞　村田良（ムラタ マサル）
1988年より滋賀県立大津高校にて軽音楽部顧問を務め、地域音楽文化の発展に寄与。軽音楽クラブ（KLMC）の設立など、数多くの音楽イベントを手がけ、高校軽音部の全国連携に尽力されました。
＜日 時＞　2024年10月5日（土） 19:00～20:00 配信　11月27日（水） 公開
2024年12月8日（土） 19:00～20:00 配信　12月25日（水） 公開
2025年4月12日（土） 19:00～20:00 配信　5月12日（月） 公開
＜場 所＞　オンライン配信（Zoom）

●ふじみ野市地域文化クラブの事例報告～部活動地域移行の課題と解決方法～
＜登壇者＞　渡辺行野
文京学院大学人間学部児童発達学科・同大学院人間学研究科 准教授
桜井 信枝
ふじみ野市文化協会 事務局長
＜日 時＞　2024年10月27日（日） 15:00～16:00 配信　12月6日（金） 公開
＜場 所＞　オンライン配信（Zoom）

●山形市ほっとなる吹奏楽部の事例報告～異年齢混合型の地域吹奏楽団の活動～
＜出演＞　富岡宏一郎
株式会社富岡本店 常務取締役
＜日 時＞　2025年1月24日（金） 公開
＜場 所＞　オンライン配信（Zoom）

【取材動画】

●保谷駅前公民館で広がる音楽の輪：公民館が担う地域文化クラブの可能性
＜出演＞　保谷駅前公民館スタッフの皆さん
＜日 時＞　2024年12月10日（火） 公開
＜場 所＞　オンライン配信（Zoom）

●枚方市デジタル部活動（吹奏楽部）の可能性
＜出演＞　長尾中学校吹奏楽部、渚西中学校吹奏楽部、枚方市教育委員会、大東楽器他
＜日 時＞　2025年3月13日（木） 公開
＜場 所＞　オンライン配信（Zoom）

【シンポジウム】

＜タイトル＞　部活動の地域移行と地域文化クラブの課題と可能性
～文化庁地域文化クラブ推進事業における実践研究～
＜目 的＞　文化庁が推進している文化部活動改革（部活動の地域移行に向けた実証事業など）に関して、音楽文化創造と関連団体が実施した実証事業から得た知見をもとに学校文化部活動の地域移行における課題と対策及びその変革が地域の生涯音楽学習環境に与える影響等を多方面から考察し、今後の発展につながる提言を行いました。

＜日　時＞　2025年2月9日（日）13:00～16:00
＜会　場＞　日本青年館ホテル 8F会議室イエロー　東京都新宿区霞ヶ丘町4-1
＜来　賓＞　合田哲雄 文化庁次長
河村建夫 元内閣官房長官、元文部科学大臣、音楽文化創造名誉会長
＜プログラム＞
主催者挨拶　中田卓也　音楽文化創造理事長
来賓挨拶　合田哲雄　文化庁次長
河村建夫　音楽文化創造名誉会長
基調講演　高橋由紀　文化庁参事官
（芸術文化担当）付 学校芸術教育室長
実証事業事例紹介（実証事業参加3団体）
ふじみ野市　桜井信枝　文化協会事務局長
渡辺行野　文京学院大学准教授
掛川市　大原基彰　掛川市教育委員会教育政策課指導主事
山形市　富岡宏一郎　富岡本店常務
地域音楽文化推進コーディネーター養成講座紹介
竹内貞一　音楽文化創造理事
パネルディスカッション
ファシリテーター　久保田慶一　音楽文化創造理事
パネリスト　井上貴至　山形市副市長
朝倉孝　ふじみ野市教育長
揚石明男　音楽文化創造常務理事
コメンテーター　高橋由紀　文化庁学校芸術教育室長

【その他の事業】

5. 音楽に関する出版物の編集及び発行

音楽文化創造のWebサイトにて4回掲載いたしました。（敬称略）

●Vol.28 特集「Well-being（ウェルビーイング）」
「第 11 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（2022年8月）では、「全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育」が提案され、第4期教育振興基本計画（2023年6月）においてもウェルビーイングはキーワードの一つとなっている。生涯音楽学習との関りで何がポイントになるのか、概観していきたい。（本誌リード文より）

・ウェルビーイングという概念と生涯学習政策としての展開
大阪成蹊大学経営学部講師　青野 桃子
京都大学教育学部講師　奥村 旅人

・「より良い自己」を目指して ----修養と生きがいの小史----
東北大学DEI推進センター助教 大澤絢子

・静岡大学ピアノとウェルビーイング研究所 創立1年を迎えて
静岡大学ピアノとウェルビーイング研究所 所長 安永 愛

●Vol.29 特集「音楽とジェンダー」

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」いわゆるSDGsの17のゴールの5番には、「ジェンダー平等を目指して」という目標が示された。各国ともその実現にむけて様々な取り組みがなされているところである。我が国においても、旧来からの「ジェンダーイメージ」や「ジェンダーロール」、「ジェンダーステレオタイプ」といわれる観念を離れ、ジェンダー平等を求める機運が高まってきている。翻って音楽の世界はどうであろうか。これまで明らかに男性が多かった作曲家達・職業的音楽家達のジェンダーバランスは、この先どう変わっていくのだろうか。今回の特集は、音楽とジェンダーと題し、音楽にまつわるジェンダーバイアスなどのこれまでとこれからを論じたい。(本誌リード文より)

・クラシック音楽とジェンダー「多様性」はクラシック音楽の救世主になるか？
　お茶の水女子大学教授(音楽学)　　井上 登喜子

・アイドルを取り巻くジェンダー・バイアスに向き合う
　慶應義塾大学文学部非常勤講師　　上岡 磨奈

・現代日本においてピアノ文化は「ジェンダー平等」が進んでいる領域か？
　桐朋学園大学教授　　玉川 裕子

●Vol.30 特集「AIと音楽」

AIの著しい変化が大きく社会を変えようとしています。すでに我々の生活に浸透しており、さまざまな面で我々をサポートしてくれる一方で、AIによって多くの仕事が無くなってしまうとの予告がされています。そして、生成AIの登場は非常に大きな衝撃でした。生成AIは文章だけでなく、画像や音声、デザイン、科学的な仮説の提案などの幅広い分野に応用することができ、その影響はビジネス界にはもちろん芸術や教育にも広く及んでいます。そこで、今号は「AIと音楽」というテーマでAIと音楽の関係を取り上げ、AIによる音楽生成の現状とAIが音楽にもたらした変化やAIがもたらすであろう影響について、論じてもらうと同時に音楽の授業に及ぼす影響についても取り上げます。(本誌リード文より)

・AIの音楽への活用の未来に向けて
　洗足学園音楽大学 教授
　日本AI音楽学会 会長　　松尾 祐孝

・音楽生成AIと創造性
　関西学院大学 学生　　川口 竜斉
　関西学院大学 教授　　片寄 晴弘

・生成AIを用いた音楽科の授業の提案とその影響
　宮城教育大学 准教授　　木下 和彦

●Vol.31 特集「SDGsと音楽～楽器の素材をめぐって～」

2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発計画」いわゆるSDGs(Sustainable Development Goals)は、貧困、暴力、気候変動、感染症など、様々な課題に対して、今後も安定して暮らし続けることができるよう2030年までに全世界で協力し、達成するべき課題を17の目標を提示している。その中でも12「つくる責任つかう責任」13「気候変動に具体的な対策を」14「海の豊かさを守ろう」15「陸の豊かさもまもろう」の4つは、直接的に環境の持続可能性を目標としている。環境問題への取り組みというと、緑化や生物保護などが思い浮かびやすいが、音楽ではどのような取り組みがなされているのであろうか。高価

な楽器ほど、象牙・鼈甲・皮革など、希少生物に由来する素材を用い、ごく限られた種類の木材を必要としてきた。そしてその素材に由来する音色や響きには、他に代え難いものがあるといわれる。今回の特集では楽器の素材に着目し、環境や資源保護を視野に入れた取り組み、リユース・リデュース・リサイクルなど持続可能性のある楽器づくりの取り組み、楽器の素材に関する新しい考え方などを通して、音楽におけるSDGsの現状と課題について論じていきたい。（本誌リード文より）

・邦楽器の持続可能性に必要な視点とは
京都女子大学 教授　　前﨑 信也

・ペルナンブコ材の現状と今後の課題
一般社団法人　全国楽器協会CITES委員
株式会社 文京楽器 代表取締役社長
株式会社 アルシェ 代表取締役社長 堀 酉基

・海洋ゴミを媒介とした音楽の歴史の追体験
パーカッショニスト・楽器製作家
海洋ゴミ楽器集団 ゴミンゾク 代表 大表 史明

＜投稿論文／実践報告＞
・質問紙調査の分析を通して
東京藝術大学 船越 理恵
東京藝術大学 萩原 史織

以上